

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

地球の未来を担うのはここにいるみんな。5日間、積極的に学んでください

三井物産「サス学」アカデミーのきろく①

②

③

主催：三井物産株式会社／企画・運営：ネクスファ／協力：朝日新聞社

1日目 未来につなごう!



三井物産 環境・社会貢献部長 菊地美佐子さん

「サス学」では、物事を「ときほくして編み込む」という考え方が大切です。普段見なれたものや、よく知っていることを一度ときほくし、「自然にやさしい」「お年寄りに役立つ」「テクノロジー」といった別のアイデアとつなげて編み込み、新しい価値をつくり出すこと。小学生には難しいテーマですが、今の世の中のこと、未来に起こりそうなことをひとつずつ学ぶうちに、段々イメージがわいてきます。自分たちの「未来の仕事」と住みたい「未来の都市」を考え発表するという目標に向けて、みんなのアタマとココロの冒険が始まりました。



環境、エネルギー、文化、社会、いろいろな関わりをときほくして考えてみましょう

三井物産 環境・社会貢献部 占部奈津子さん

「ジオ・スコープ」に映し出された2100年までの気温変化の予測。真っ赤な地球の姿にショック。



未来につながる「サス学」で

紙上採録

何が見えてくるだろう?

※「サス学」は三井物産の登録商標です。

このまま地球温暖化が進んだら、エネルギーに限りがあるとしたら、僕たち・私たちが大人になったとき、どんな未来が待っているだろう——。

この夏、各地から集まった25人の小学生たちが、持続可能(サステナブル)な未来をつくるための「サス学」アカデミーに参加しました。

三井物産では、持続可能(サステナブル)な未来を創る力を育むための学びを「サス学」と名付けます。



未来を考えるヒントを12の項目に分けた、「サス学」羅針盤。アイデアに詰まったとき、考えを整理したいとき、繰り返し何度も使えます。

2日目

未来につながる仕事を学ぼう!

2日目は、未来につながる仕事について三井物産社員のみなさんから学びました。初めに登場したのは、斉藤さんと対馬さん。森が元気に育つためには、適切に木を切って日当たりや風通しを良くする必要があること、みんなが木の製品を使えば、そのお金が森を守る活動につながるなど、興味深い話が続きます。後半は、マレーシアのメディニ地区で近未来のスマートシティ(環境配慮型都市)開発に取り組む岡村さんと石田さんが、現地からウェブカメラを通して子どもたちの質問に直接答えてくれました。

イスカンダール計画(ヌサジャヤ地区概要)



三井物産 環境・新エネルギー事業部 中原大介さん

私も岡村さんや石田さんと一緒に街づくりの仕事をしていますが、いつも考えているのは、住む人や訪れる人にワクワクしてほしいということです。

Medini Iskandar Malaysia Sdn Bhd (三井物産より出向) 岡村哲夫さん(写真左)

Medini Iskandar Malaysia Sdn Bhd (三井物産より出向) 石田一明さん(写真右)

僕たちがめざしているのは、子どももお年寄りも、外国の人も病気の人も、みんなが一緒に暮らせる街。そしてみんながつながれる街です。(岡村さん)

自分たちが何をしたいかではなく、住む人にとってどんなものが便利か、楽しいか、必要かをいっしょけんめい考えることが、街づくりで重要だと思います。(石田さん)

未来の都市をつくる仕事



岡村さん、石田さんとみんなで記念撮影。ウェブカメラの向こうのお二人も、みんなとの会話を楽しんでくれたようです。

木を活かし、森を守る仕事



三井物産 環境・社会貢献部 斉藤江美さん

本物そっくりのチェーンソーのおもちゃもありました。林業っておもしろそう



三井物産 環境・社会貢献部 対馬洋平さん

(上)木の板を何枚も貼り合わせたCLTという木材。コンクリートにも負けない強度があり、30階建てぐらいのビルもつくれるそうです。(下)バイオマス発電に使う木質チップや、木を切る人たちがかぶるヘルメットなど、初めてみるものがいっぱい。



初めは便利な道具や発明品ばかりを考えていたけど、それだけで街ができるかな?

「水中都市」「自動運転車」「地震をなくせる装置」「絶滅危惧種を復活させるコピー機」。みんなが考えた「未来の都市にあつらいいもの」です。ここからどう都市づくりにつなげていけるでしょうか。

みんなの感想

- 街づくりでは人がワクワクするような街をつくるのが大切だということを知った。
- 自分にはない発想を聞いて、さらに自分の発想をミックスして、あたらしいことを生み出せた。
- 作文に書いた夢が広がったと思いました。
- 未来が楽しみになった。

次回は9月上旬掲載の予定です。

三井物産「サス学」アカデミーのきろく② (3日目)「2050年わたしの仕事」づくり (4日目)「2050年の未来都市」づくり

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

① 三井物産「サス学」アカデミーのきろく ② ③

主催：三井物産株式会社／企画・運営：ネクスファ／協力：朝日新聞社

3日目 「2050年わたしの仕事」づくり

およそ1週間ぶりに行われた「サス学」アカデミーの3日目。前回の最後に、みんなには宿題が出されていました。それは「2050年に自分がやりたい仕事」を考え、発表の準備をしておくこと。グループごとに「ニュース番組」をつかった初日と違い、この日は個人プレゼンテーション。大勢の見学者が見守る中、大人でも緊張する人前での発表を、みんな堂々とこなしていきます。イラストを入れたり、文字をきれいに色分けしたり、思い思いの資料を使って説明されるユニークなアイデアに、保護者や三井物産の人たちも感心しながら耳を傾けていました。



スーパー 超物流センターシステム開発



地下には埋めぐらせたパイプで世界中どこでも荷物が送れるようにします。ガソリンを使わないので空気が汚れません。

オーシャンパーク Ocean Park



このまま地球温暖化が進んでも、海中テーマパークならすずしく快適。世界中の人が集まって仲良くなれる場所です。



三井物産 環境・社会貢献部長 菊地美佐子さん

2050年に私はロボットに介護されているかもしれない、ひょっとしたら宇宙に行っているかもしれない、と夢が広がる楽しい発表でした。今の気持ちを大切にみんなが大人になってくれば、未来もきっと安心ですね。

外国には10代で会社を始めた人もいます。君たちにもできるかもしれません。

今日の発表を聞いて気付いたのは、未来はもう君たちの中にあるということです。その夢を持ち続けて、新しい世の中をつくってください。



三井物産 環境・新エネルギー事業部 中原大介さん

さわやか地下都市



「太陽窓」と「反射鏡」を使って日光をたくさんとりいれるので、地下だけと森やジャングルも育つし、明るくて空気もきれいです。

世界中の人と助け合って効率的に仕事をして、時間が空いたら水不足の国でも育つ作物の研究などをします。

グローバル農家



アンダーシーワールド



将来人口が増えても、地球温暖化で海面が上がっても、世界中の人が安心して住めるように太平洋の下に海底都市をつくります。

みんなの感想

- 最初の考えをいろんなしてから考え、つけくわえたりしました。
- 高齢化がすすんだり、エネルギーや温暖化を考えた。
- 環境問題は温暖化解決を、医療の発展は熱中症解決などを考えた。



「サス学」を学んで見えてきた

※「サス学」は三井物産の登録商標です。

未来の仕事と未来のまち

紙上採録

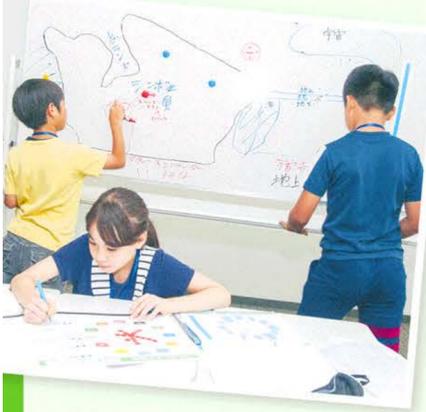
このまま地球温暖化が進んだら、エネルギーに限りがあるとしたら、僕たち・私たちが大人になったとき、どんな未来が待っているだろう――。

未来が持続可能(サステナブル)であるためにできることは何か、25人の小学生と一緒に学ぶ「サス学」アカデミー。3、4日目は「仕事」と「まち」がテーマです。

三井物産では、持続可能(サステナブル)な未来を創る力を育むための学びを「サス学」と名付けます。

4日目 「2050年の未来都市」づくり

前日に発表した一人ひとりの仕事を合わせて、みんなが働き、暮らす「都市」をグループごとにつくりあげること。それが最終日に向けたこの日の作業です。都市の名前を決め、セールスポイントを考え、特徴のあるエリアをつくり、地図や都市のシンボルをかたちにしていきます。人と自然とテクノロジーの共生をめざすグループ、「世界で一番ワクワクする都市」に必要なものは何かを考えるグループなど、難しいけれど楽しい話し合いが続きます。明日の最終日、どんな個性あふれる五つの都市が姿を見せてくれるでしょうか。



みんなの仕事や地図のうえに書き出し、協力したり補い合ったりできる部分を見つけていきます。

みんなの感想

- 自分とは、全然ちがう意見もたくさんあって、自分よりも考え方が広い人がいておもしろかった。
- 違う仕事でも、いろんなところでつながりがあることがわかってよかった。
- 未来のことを考えながら、住む人の気持ちもいっしょに考えたことはたのしかった。



まちのシンボルを制作中。楽しくて夢中!

「サス学」羅針盤を使ってメンバーが気になっていることを確認。このグループは「グローバル化」に関心が高いようです。



ブロックで海底都市を制作中。入り口から水が入ってこないように考えるのが難しい!

次回は9月中旬掲載の予定です。

三井物産「サス学」アカデミーのきろく③ (5日目)「2050年の未来都市」づくり グループプレゼンテーション 最終日、未来の都市が生まれます!

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

①

②

三井物産「サス学」アカデミーのきろく③

最終回

主催:三井物産株式会社/企画・運営:ネクスファ/協力:朝日新聞社

5日目 「2050年の未来都市」づくり

未来について、アタマとココロをいっぱい使って考えた「サス学」アカデミーも今日が最終日。グループごとに考えた「2050年に住みたい都市」を発表する日です。どのグループも集合時間のずいぶん前に集まり、最後の仕上げや発表の練習に余念がありません。演劇風あり、ニュース仕立てあり、発表の方法にもこだわった5つのグループは、まだ誰も見たことのない、みんなが最高にワクワクできる5つの都市をつくり出しました。

グローバルグリーンタウン



地下のパイプでどこでも簡単にモノを送れる「超物流センター」、世界中の料理人を集めた「グローバルレストラン」、森の動物たちのための「森林病院」もあります。都市の中心にある本部ビルは雲の上に頭が出るほど高いので、屋上のパネルでいつでも太陽光発電ができます。

スワンシティ



海には大人も子どもも楽しめる「Ocean Park」、地下はいつも明るい「さわやか地下都市」、宇宙エレベーターで上がった先には景色のきれいな「宇宙ホテル」があります。おいしい食べ物をつくるのは、世界のひとと助け合って働く「グローバル農家」。みんなが楽しく生活しています。

ファミリー・アンド・フレンズシティ (FFC)



FFCは、中央の大きな湖の周りを花畑が囲む景観の美しいまち。都市を一周するのは、音楽ライブが楽しめる「ミュージックTrain」。「水エリア」にはぜんぶ食べられる花がたくさん咲いています。「Rose Area(老's エリア)」では、そこに暮らすお年寄りやお世話をするロボットが快適に生活しています。

未来について考えた

紙上採録 「サス学」は みんなの羅針盤

※「サス学」は三井物産の登録商標です。

環境のこと、エネルギーのこと、少子高齢化のこと、どれも気になるけれど、僕たち・私たちに未来を変えるアイデアと、あふれるほどの希望がある——。

持続可能(サステナブル)な未来をつくるため、楽しく、ときに真剣に語り合った25人の小学生は5日間の学びを終えて何を見つけたのでしょうか。

三井物産では、持続可能(サステナブル)な未来を創る力を育むための学びを「サス学」と名付けます。

テクノワンシティ



「テクナ」はテクノロジー、「ワンワン」は「世界一のモノやコト」が「世界一たくさんある」都市という意味です。みんなが健康のために運動したり、人のためにいいことをしたりすると「テクノポイント」がもらえて、ほしいものとの交換や、困っている人への寄付に使えます。

Future-city



自然エリアには海底都市「アンダーシーワールド」や森があり、そこでとれた野菜や木材を産業エリアで製品にします。できたものは住宅エリアで使います。都市の中の移動手段は、磁石の力で動く乗り物「MOVE BALL」。急いでいる人には「宇宙タクシー」もあります。



みんなの感想

- いろいろな話し合っ、1つのものをつくってとても、うれしかったです。
- 学校では、おしえてくれないことがわかった。
- みんなといろいろなことを話してまとめるのが楽しかった。
- もっとたくさんテーマで話し合いをして、はっけんをいっぱいしたいです。



三井物産 副社長 木下雅之さん

みんなが成長した5日間

サステナブルとは、ものごとを健全な姿で続けていくこと。私たちが仕事をするとき、環境に配慮しているか、地域や社会のためになっているかといったことをいつも考えています。サステナブルのための方法や考え方を学んだ5日間で、みんな大いに成長したと思います。

三井物産 都市開発事業部 和田佑介さん

すばらしい発表でした

マレーシアにスマートシティをつくる私の仕事に、みんなのアイデアを生かさないかと真剣に聞いていましたが、どのグループもすばらしかったと思います。今日もらったヒントをひとつでも実現できるよう、私も明日からの仕事を一生懸命がんばります。

Medini Iskandar Malaysia Sdn Bhd (三井物産より出向) 岡村哲夫さん(左)

Medini Iskandar Malaysia Sdn Bhd (三井物産より出向) 石田一明さん(右)

夢を実現してほしい

この5日間、夢を持って真剣に議論をしてくれたことをうれしく思います。みんなと話したことはとても刺激になりました。(岡村さん)

今日みんなが発表した夢を実現するために、これからいろんなことを勉強して、いろんなことを体験してください。(石田さん)

サス学アカデミー 杉浦正吾先生

今日が君たちのスタート

この最終発表だけでなく、「サス学」では途中のプロセスすべてが大切で、それはみんなのなかにしっかり残っているはず。5日間の体験をした君たちが10年後、20年後どんなすごい人になっているか楽しみにしています。今日からが君たち自身の「サス学」のスタートです。

「三井物産『サス学』アカデミーのきろく」は今回が最終回です。これからも三井物産の「サス学」への取り組みにご期待ください。

